

ロタウイルスワクチン Q&A

Q1 何のために接種するのですか？

A1 ロタウイルス性胃腸炎を予防するためです。

Q2 ロタウイルス性胃腸炎は、いわゆる“胃腸カゼ”とは違うのですか？

A2 **いわゆる胃腸カゼの1つです。**毎年冬に流行します。2歳以上の子どもが罹ると軽い胃腸カゼですむことが多いですが、小さな子ども（特に乳児）が罹ると重症化しやすく、国内で毎年約8万人の子どもが入院しています。入院には至らなくても、乳児のロタウイルス性胃腸炎は、ひどい下痢が1週間以上続くことはしばしばであり看病が大変な病気です。

Q3 いつ、何回接種しますか？

A3 **生後1ヶ月半～6ヶ月に4週間以上の間隔で2回接種します。生後6ヶ月（生後24週）までに接種を終える必要があります。**スケジュールを考えると生後2ヶ月になってから、ヒブ、肺炎球菌ワクチンと同時に接種を始めるのがお勧めです。（今後3回接種が必要なワクチンも発売されます。混同しないようにしてください）

Q4 なぜ生後7ヶ月以降に接種できないのですか？

A4 生後7ヶ月以降で接種すると、**腸重積症**という病気になりやすくなる可能性があるためです。

Q5 生後6ヶ月までなら、ロタウイルスワクチンを接種後に腸重積を起こさないのですか？

A5 生後6ヶ月までの子どもでも、ワクチン接種の有無に関わらず腸重積症を起こす可能性はあります。これまでの治験や海外の多数の接種実績で、生後6ヶ月までにワクチンを接種された子どもに腸重積症の発症が増えたという事実はありません。また、もともと腸重積症は生後3ヶ月未満児にはまれです。

Q6 うちの子どもも、ロタウイルス性胃腸炎に罹りますか？

A6 予防接種をしない場合、ほとんどの乳幼児は5歳までに1度は罹るとされます。毎年120万人のロタウイルス性胃腸炎の発症があると推計されています。

Q7 どれくらいの有効性がありますか？

A7 入院となるような**重症のロタウイルス性胃腸炎を90%以上予防し、軽症のロタウイルス性胃腸炎を70%以上予防**します。

Q8 ロタウイルスワクチン接種後、他のワクチンを接種するまでにどれだけの間隔を空ければいいませんか？

A8 生ワクチンなので接種後4週間空ける必要があります。

Q9 ロタウイルスワクチンと、ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンではどちらがより重要ですか？

A9 **ヒブ、肺炎球菌ワクチンの方が重要です。**同時接種を避けるためにロタウイルスワクチンを優先して接種して、あとからヒブ、肺炎球菌ワクチンを接種するという接種の仕方はお勧めできません。

Q9 腸重積症以外に副反応はないですか？

A9 多少の下痢を起こすことはあると思われます。生ワクチンなので免疫不全症（生まれつき免疫力が極端に弱い病気）の子どもに接種すると、危険なので万が一ご家族ご親戚に免疫不全症の方が見える場合は事前にご相談ください。

裏面に続く

Q10 三種混合、ヒブ、肺炎球菌ワクチンと一緒に接種しても大丈夫ですか？また、その場合4本も針を刺すのですか？

A10 一緒に接種しても大丈夫です。海外では、ごく一般的におこなわれています。また、ロタウイルスワクチンは飲むワクチンなのでお子さんの負担はほとんど増えません。

Q11 ズバリ、接種した方がいいですか？

A11 ロタウイルス感染症も脳症を引き起こして命に関わることはあるものの、栄養状態のよい日本で命に関わることは少ないので、接種するかどうかは保護者次第です。効果と安全性は十分なレベルだと思います。問題は接種費用でしょう。共働きのご家庭で2歳未満児を保育園に預ける場合、とくに接種する価値は高いと思います。

平成 23 年 11 月 22 日 さかたこどもクリニック院長